

2020年度から新たに始まる「大学入学共通テスト」では、国語と数学で記述式が導入される。国語は、思考力・判断力・表現力をより深く測ろうとするものだ。友学園(守口市)は「学ぶ力」の育成で塾生たちの伸びしろを最大限に引き上げることに重点を置いている。

鍵握る「国語力」

小学4年から中学3年の現在まで6年間、友学園で学んでいる。英数国理社の5科目を学んでいるが、「論理性を学ぶことができる国語が好き」と公立中学3年、星野有咲さん。入塾当初は学校のクラスでは真ん中ぐらいの成績だったというが、現在は学年でトップクラスに入る成績を維持し、府内でも有数の難関校を目指している。

有咲さんの成績を飛躍させた要因に国語力のアップが大きい。指導している教室長代行、内田智久さんは「国語力が上がれば思考力も培われます」と



「国語力」は「思考力」の礎

他の教科にも相乗効果



星野有咲さん(左)と内田先生



いう。

一般には国語は感覚、センスで勝手に点数アップにつながると思われがちだが、「他の教科同様に必要な意図的な学習が必要な教科。正しく日本語を読み解く力がつけば、全教科の学力アップにもつながります(内田室長代行)と国語力の大切さを強調する。

「論理力」で実力アップ

友学園が導入している国語力アップの指導方法は、語彙(ごい)力と論理的思考力を鍛えるもの。ま

ずは一文の読み方を学び、次に言い換えや対比関係をとらえ、理由をたどり、要点をつかむ力のトレーニング。その中でさまざまな表現に触れ語彙力も高める。結果として、自ずと「構成力や表現力が付くという。

有咲さん自身も「国語力が付くと考える力も向上し、全教科頑張れるようになりまし。分かりやすく指導していただける先生の存在は大きいです」と志望校目指して全幅の信頼を寄せている。